

世界にはばたけ、teenagers!

SPAC

演劇アカデミー



自分への挑戦。

SPAC演劇アカデミーは、高校生を対象とした演劇塾です。学校の枠を超えて集まった高校生たちは、SPACの劇場に通いながら、プロの俳優・スタッフによる指導のもとで、演技の基礎や名作戯曲の上演に向けての稽古に取り組むとともに、教養・英語・小論文の学習にも力を入れ、思考力・対話力を身につけていきます。また、さまざまな舞台作品に触れ、国内外のアーティストとも交流していきます。アカデミーでの1年間の経験は、若者たちの感性を磨き、審美眼を育むとともに、「他人と違うことを考える」ことの価値に気づききっかけとなります。このことは、演劇の道に進むかどうかにかかわらず、未来を切り拓くための土台となるでしょう。SPACは静岡県が設立した公立の劇団として、劇場を広義の教育機関ととらえ、新しい世界に、自分自身に挑戦する人を全力で応援します。



東アジア
文化都市
2023 静岡県
Cultural City of East Asia
2023 SHIZUOKA

SPAC

SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER

芸術総監督 宮城聡

スパック = 静岡県舞台芸術センター

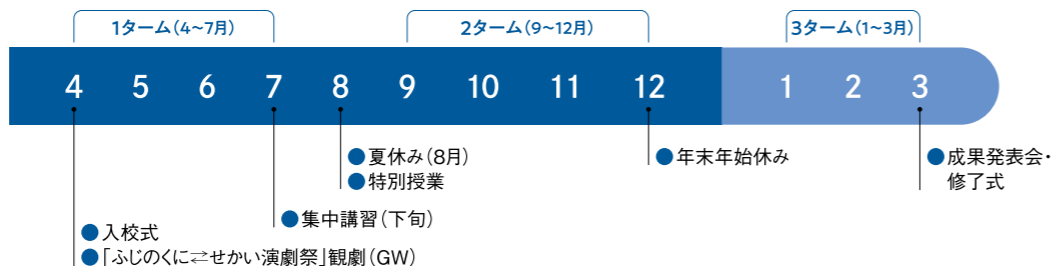


校長 宮城聰

1959年東京生まれ。演出家。SPAC・静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカシアターカンパニー旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。17年『アンティゴネ』を仏・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、同演劇祭史上初めてアジアの劇団が開幕を飾った。近年はオペラの演出も手がけ、22年6月に世界的なオペラの祭典、仏・エクサンプロヴァンス音楽祭にて『イドメネオ』、同年12月には独・ベルリン国立歌劇場における初の日本人演出家として『ポントの王ミトリダーテ』を演出し大きな反響を呼んだ。04年第3回朝日舞台芸術賞受賞。05年第2回アサヒビル芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

©新良大

年間スケジュール



1週間のスケジュール

水曜日	▶ 『教養の書』を読む	50分	オンライン
金曜日	▶ 小論文	90分	オンライン
土曜日 (随時)	▶ 観劇		主に静岡芸術劇場
日曜日	▶ ミュージカル映画で学ぶ英語	60分	主に舞台芸術公園
	▶ 実技 [演技基礎および台本練習]	約4時間	



©猪熊康夫

実技

演技の基礎

SPAC俳優が普段行っているトレーニングに取り組むことで、重心や呼吸を意識し、身体感覚を研ぎ澄まさせていただきます。継続的に実践することで、自分の身体の状態や変化を深く知ることにつながり、演技における「相手との関係性」をつくる基盤を築くことができます。

成果発表会

名作戯曲に挑み、舞台作品をつくりあげ、1年間のアカデミーの集大成として観客の前で披露します。2021年度(一期生)は三島由紀夫の『三原色』、2022年度(二期生)は同じく三島由紀夫の『葵上』を上演しました。

講師：寺内亜矢子

1997年ク・ナウカシアターカンパニーにて演劇活動開始。劇団休止後は、SPACを主な拠点に国内外の舞台に出演するほか、2002-14年にかけて東京芸術大学にて身体表現教育に携わる。14-16年にかけて、フランス在住。近年は関西大学にて留学生の日本語教育に演劇を活用するプロジェクトにも参加。静岡県文化プログラム/SPAC『忠臣蔵 2021』共同演出。SPAC 秋→春のシーズン2022-2023『リチャード二世』演出。俳優・演出以外にも、音楽構成や通訳も手がける国際派マルチプレイヤー。



©加藤幸

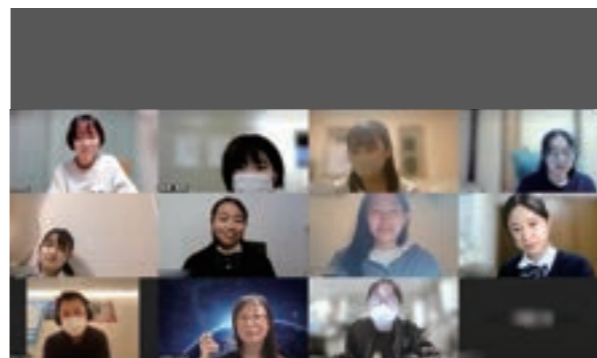


ミュージカル映画で学ぶ英語

映画『RENT』の映像を見ながら皆で歌ったり、英語でシアターゲームを行ったりして、楽しみながら英語を学びます。俳優としても活躍する講師が発音やアクセントについても分かりやすく指導するほか、海外在住者の話を聞くなどで海外の文化について理解を深めることも大切にしています。

講師：Ash

慶應義塾大学SFC在学中にアメリカ、及びドイツをはじめとする欧州で舞台に立ち、日本語と他の言語の歌曲の違いについて研究を重ねる。帰国後は東京芸術大学に入学。内閣府主催の「東南アジア青年の船」に乗船し多文化ミュージカルの脚本、演出を手掛けるなどの活動の中で語り継ぐ芸術としての琵琶の魅力に目覚め、琵琶奏者としても活動している。



『教養の書』を読む

戸田山和久の著書『教養の書』を1年間かけて皆で読みます。すべての勉強のベースとなる『教養』について学び取ることはもちろん、本のなかにたくさん登場する映画や書籍等とおしてさまざまな世界を知ることができます。また、本文中に難しい単語が出てきても講師が分かりやすく説明するので、授業の内容も理解しやすいです。

講師：大沢由加子

東京大学在学中より演劇活動を開始。俳優として小島クロックワーク、ク・ナウカシアターカンパニーに所属後、演出家としてお芝居デリバーまりまりの音話メドレーを開発。その後は路上演劇や旅しながら独自のひとり演劇をベースに活動している。これまでの主な訪問先はメキシコ、ブラジル、タイ、インドネシア、トルコ、ラオスなど。演劇外ではNHKの報道局にて海外ニュース関連の翻訳の仕事もしている。



小論文

「自由であることは息苦しいか」「主体的な学びはありうるか」といった身近なテーマを掘り下げ、人間や社会について考えます。講師から様々な論点や資料が提示されるので、それらを参照しながら自分の考えを組み立て、構成の整った文章で表現する練習ができます。フィードバックもあるので、お互いの文章への感想を共有しながら、文章力を向上させることができます。

講師：大岡淳

演出家・劇作家・批評家。1970年兵庫県生まれ。早稲田大学第一文学部哲学科哲学専修卒業。SPAC文芸部スタッフ、静岡大学非常勤講師、静岡文化芸術大学非常勤講師を務めるほか、河合塾コスモ東京校で現代文・小論文講師を務め、また武久出版編集部顧問として大学入試関連業務も請け負う。2023年、日楽社のワンコイン参考書・問題集シリーズで、「小5国語参考書」「小5国語問題集」「小6国語参考書」「小6国語問題集」を執筆・刊行した。



©日尾豪志



©猪熊康夫、平尾正志

修了生(一期生)の声

演劇や芸術のことだけでなく進路のことでも
沢山相談にのっていただいたり教えていただいたり今があるので、
しあわせと感謝しかありません！

普段出会えないような人たちと出会い、
お互い認め合いながらともに舞台に立ったことを通して、
尊敬できる仲間になれたと心から思う。

アカデミーではバックグラウンドも性格も
自分とは全く異なる仲間が集まり1つの作品をつくりあげるといふ、
普通の高校生活では絶対にはない貴重な経験を
させていただきました。

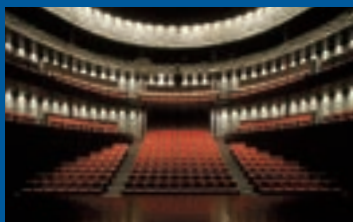
年齢も性別もカルチャーも価値観も異なる人たちと接することで
自分の芯や意見を持つこと、建設的な思考を持つこと、
他人の意見を聞き受け入れることなどの
重要性を学ぶことができた。

自分の価値観に絶えず影響を与えてくれる同世代の仲間、
先生と親以外のプロの大人に出会えた。演劇のことだけでなく、
人間との関わりを教養の時間や作品作りの中で考えることができ、
人生の糧となるすばらしい1年となった。

自分一人では知りえなかったことを知ることができ、
新しい道や新しい可能性を見つけることができた。
この7年間で学び、できるようになったこともたくさんあるが、
課題や疑問などアカデミー後に残るものがたくさんあり、
アカデミー修了後にもつながっていく意欲をもらえた。

SPAC-静岡県舞台芸術センターについて

専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作
スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団。舞台
芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台
芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術
総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より
宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。
教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業
公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。



SPACの活動拠点は2ヶ所。東静岡駅前のグランシップにある静岡芸術劇場(写真左)と日本平にある静岡県舞台芸術公園(写真右)

お問い合わせ

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2丁目3-1 芸術局制作部 SPAC演劇アカデミー担当

TEL: 054-203-5730 FAX: 054-203-5732 E-mail: academy@spac.or.jp